

<町家と町家の間取りについて>

高級な町家と、庶民的な町家の違いは賃貸の長屋であったかどうかです。よしやまち町家校舎は賃貸の長屋（借家）でしたので、庶民の基本的な文化を表しています。

京都の長屋では、お座敷のうち二畳分を3分割して、床の間、床脇、仏壇として使われるパターンが多く、仏壇の隣には板戸で隠された押入れ階段がありました。明治の終りから大正の初めまでは、押入れ階段が普通でしたが、それ以降は階段が露出しています。

座敷は、縁側、押入れ、とおりにわと言われるキッチンに面しています。直接外気に面していないため冬の寒さから守られていて、夏は縁の下の湿気と空気を利用したり、建具を開けて風通しをよくすることで暑さを緩和しています。町家ほど風通しがよい建築はありません。町家には暮らしの文化が詰まっています。

町家は、基本的には「木」「土」「草」でできていて、自然素材に囲まれています。今回は一番体に触れる『たたみ』をテーマに勉強をしました。

